

平成27年度全国学力・学習状況調査結果の概要

熊野市教育委員会

1. 各教科の平均正答率

【小学校】 (％)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
熊野市	57.1	50.6	61.9	33.2	52.4
三重県	68.0	65.3	74.8	44.1	59.2
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8

【中学校】 (％)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
熊野市	73.4	63.3	62.4	39.5	50.9
三重県	75.0	64.3	64.3	40.6	51.9
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

2. 各教科における特徴

(1) 小学校

① 国語A 主として「知識」に関する問題

「友人を家に招く」の「まねく」という漢字を読むことについては、96.2%の児童ができており、全国平均とほぼ変わらない。また、選択式設問の無解答率は、全国平均より低いものが多い。

しかし一方で、漢字を正しく書くこと、文の登場人物の相互関係をとらえること、作品募集の案内の中から必要な情報を読みとること、話の内容を工夫して聞きとることについては、全国平均を大きく下回っている。

②国語B 主として「活用」に関する問題

目的や意図に応じ取材した内容を整理しながら記事を書くことや、目的に応じ、文章の内容を的確に押さえながら要旨を捉えること、文章と図とを関係付けて自分の考えを書くこと、登場人物の気持ちの変化を想像しながら音読する時の工夫とその理由を書くことについては、全国平均を大きく下回っている。また、記述式で解答することに課題があり、無解答率も高い。

③算数A 主として「知識」に関する問題

繰り上がりのある加法の計算(28+72)については、96.2%の児童ができており、全国平均とほぼ変わらない。

しかし一方で、分数と整数の割り算や分度器の目盛りを読むこと、見取り図と展開図を関連付けた位置関係の理解は、全国平均を大きく下回っている。

④算数B 主として「活用」に関する問題

平行四辺形の性質を基に、平行四辺形をつくる辺の組み合わせの理解については、93.8%の児童ができており、全国平均とほぼ変わらない。

しかし一方で、2組の道のりが等しくなることを根拠として図形の性質を記述することや、三角形の性質を基に角度が求められる理由を記述すること、割引後の値段の求め方を記述することは、全国平均を大きく下回っている。

⑤理科

メダカの雌雄を見分ける方法の理解や、生物の成長に必要な養分を他の生物から取ることの理解については、それぞれ77.7%、68.5%の児童ができており全国平均とほぼ変わらない。

しかし一方で、星座や雲の動きについて観察記録を基に考察して分析することや、実験結果を基に自分の考えを改善すること、メスシリンダーという名称の理解については、全国平均を大きく下回っている。

(2) 中学校

①国語A 主として「知識」に関する問題

漢字(「秒速」「余った」)を正しく書くこと、漢字(「袖(そで)」)を正しく読むことについては、それぞれ93.8%、74.2%、96.9%の生徒ができており、いずれも全国平均を上回っている。また、古典の作品名「竹取物語」を漢字で正しく書くことについては、79.7%の生徒ができており、全国平均を大きく上回っている。さらに、ほとんどの問題で無解答率が全国平均を下回っている。

しかし一方で、伝えたい事実を明確に書くことや、語句の意味を理解し文脈の中で適切な敬語を選択すること、品詞を適切に類別することについては全国平均を大きく下回っている。

②国語B 主として「活用」に関する問題

効果的な資料を作成し活用して話すこと、表現の工夫について自分の考えをもつことについては、それぞれ89.8%、89.1%の生徒ができており、全国平均を上回っている。

しかし一方で、状況に応じて資料を活用して話すことや、文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け要旨を捉えること、根拠を明確にして自分の考えを書くことについては、全国平均を下回っている。

③数学A 主として「知識」に関する問題

一次式の減法の計算や、連立二元一次方程式を解くこと、直角三角形の斜辺を軸とする回転によって構成される空間図形の形の理解や、同位角の意味の理解については、それぞれ90.6%、57.8%、87.5%、83.6%の生徒ができており、いずれも全国平均を上回っている。

しかし一方で、正の数と負の数の意味を実生活に結び付けた理解や、平行移動した図形の作図、二元一次方程式の解を座標とする点の集合が直線として表されることの理解、与えられた資料から中央値を求めることについては、全国平均を下回っている。

④数学B 主として「活用」に関する問題

必要な情報を選択・処理しその結果を事象に即して解釈することや、事柄が成り立つ理由の構想を立てて説明すること、発展的に考え条件を変えた場合の証明については、それぞれ36.7%、44.5%、53.1%の生徒ができており、全国平均を上回っている。

しかし一方で、証明を振り返り新たな性質を見いだすことや、資料の傾向を的確に捉え判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること、振り返って立てられた構想に沿って事象を数学的に表現し意味を解釈することについては、全国平均を下回っている。

⑤理科

混合物を加熱したときの化学変化を説明することや、天気の記事から風向を読み取り風向計を使って風向を観測すること、露点を測定し最も高い湿度の時刻を導き出すこと、音の高さが高くなったといえる音の波形の特徴を指摘することについては、それぞれ60.6%、52.0%、40.9%、44.9%の生徒ができており、全国平均を上回っている。

しかし一方で、オームの法則を使って抵抗の値を求めること、デンプンが消化酵素によって分解され最終的にできた物質の名称について、他者の考察を検討・改善し課題に対して適切な（課題に正対した）考察を記述することについては、全国平均を下回っている。

3. 児童生徒質問紙の特徴的な傾向

【児童質問紙（小学校）】

回答の割合が全国平均を上回っている項目

○朝食を毎日食べていますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：96.1% 全国：95.6%

○新聞を読んでいますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：24.0% 全国：23.7%

○家の人（兄弟姉妹を除く）は、授業参観や運動会など学校の行事に来ますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：98.4% 全国：96.6%

回答の割合が全国平均を下回っている項目

○自分には、よいところがあると思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：62.1% 全国：76.4%

○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：42.6% 全国：62.8%

○家で、学校の授業の復習をしていますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：34.9% 全国：54.5%

○「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：34.2% 全国：65.8%

○5年生までに受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：72.8% 全国：86.7%

【生徒質問紙（中学校）】

回答の割合が全国平均を上回っている項目

○学校に行くのは楽しいと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：83.5% 全国：82.1%

○人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：94.5% 全国：93.7%

○1，2年生のときに受けた授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：79.6% 全国：78.2%

○1，2年生のときに受けた授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：82.7% 全国：79.7%

回答の割合が全国平均を下回っている項目

○自分には、よいところがあると思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：52.8% 全国：68.1%

○学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。

（塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

・「2時間以上勉強している」と回答した割合 熊野市：11.0% 全国：35.7%

○家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：33.8% 全国：48.8%

○「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：34.7% 全国：58.0%

○1，2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思いますか。

・「当てはまる」「どちらかと言えば、当てはまる」と回答した割合 熊野市：59.1% 全国：73.7%

4. 学校質問紙から見えてきた傾向

全国学力・学習状況調査では、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査も実施しています。

その中で、「児童・生徒は礼儀正しい。」「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童・生徒に示す活動を計画的に取り入れている。」等を肯定的に回答した学校が多く見られ、生徒指導の充実や、授業改善に向けて、各学校が取組を具体的に進めていることが伺えます。

その一方で、「各教科等の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置付けている。」「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導をしている。」「児童・生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をしている。」等を肯定的に回答した学校が少なく、課題改善に向けた取組をより進めていくことが必要です。